

MHC統御カニクイザルの有用性評価と計画生産の検討



■期待される成果

iPS細胞由来の分化機能細胞や臓器の移植成否を規定するMHCを統御したサル類のモデルは、ヒトの再生医療の基礎研究や臨床研究に外挿性を高めることが期待される。

■想定される実用化の時期 2017年頃

■シーズの内容

- ・カニクイザルMHC遺伝子の新規タイピング法の開発と検証
- ・MHCハプロタイプのカニクイザル系統樹立と生産体制の確立

■プロジェクトリーダー

株式会社イナリサーチ 中川賢司

■実施機関

株式会社イナリサーチ
東海大学
滋賀医科大学
慶應義塾大学

■実施期間

平成25年12月～平成29年11月

